

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策Ⅰ-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	----------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	畜産課長 川津章弘	電話番号	0852-22-5135
----------	-----------	------	--------------

事務事業の名称	畜産公共事業		
目的	(1) 対象	肉用牛担い手農業者等	
	(2) 意図	飼料基盤の整備や家畜保護施設の設置等により地域畜産の担い手育成や畜産主産地としての体制づくりを行い、畜産の持続的発展と地域の活性化を図る。	
事業概要	<p>低コスト肉用牛生産を実施するために放牧場を整備し、肉用牛の担い手を育成する。 事業実施地区の自給飼料確保のための基盤整備を行い、飼料自給率の向上と低コスト生産を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隠岐島後地区：（平成24年度～29年度）全体事業費457,181千円。肉用牛振興に必要な放牧場や畜舎などを整備 ・隠岐島前Ⅱ地区：（平成26年度～30年度）全体事業費497,827千円。肉用牛振興に必要な放牧場や畜舎などを整備。 		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 放牧頭数	目標値		3,975.0	3,860.0	3,930.0	4,000.0	頭
		取組目標値						
	式・定義 当該年度による放牧頭数	実績値	3,735.0	3,794.0				
		達成率	-	95.5	-	-	-	%
2	指標名 放牧場整備面積	目標値		5,730.0	5,760.0	5,790.0	5,820.0	ha
		取組目標値						
	式・定義 当該年度による放牧場面積	実績値	5,696.0	5,635.0				
		達成率	-	98.4	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	98,673	100,332
うち一般財源 (千円)	19,673	26,839

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

<p>草地基盤を整備し、肉用牛の自給率向上を進めてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隠岐島後地区：（H24～28）放牧林地用整備72.72ha、道路整備3,397m、排水・雑用水施設整備6か所、施設用地造成整備0.25ha、隔障物整備11,205m、家畜保護施設整備1棟、家畜排せつ物処理整備1棟、放牧馴致施設整備7か所 ・隠岐島前Ⅱ地区：（H26～28）草地造成0.37ha、草地整備0.42ha、野草地整備71.9ha、雑用水施設整備2か所、隔障物整備12,372m、家畜保護施設整備1棟、放牧馴致施設整備1か所

6. 成果があったこと（改善されたこと）

<p>①放牧面積の拡大。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隠岐島後地区、島前地区において、野草地整備及び放牧林地整備により、41.3haの放牧地を整備し、新たに41頭分の放牧可能な面積を拡大した。 ・法人等での肉用牛増頭が進んでいる中、自給飼料基盤が着実に増加しており、肉用牛の低コスト生産基盤が確保できた。 <p>②隠岐地域の肉用牛飼養頭数増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隠岐地域において82頭増 隠岐の島町 H27 759頭→H28 782頭 海士町 H27 1,041頭→H28 1,099頭 西ノ島町 H27 829頭→H28 850頭 知夫村 H27 563頭→H28 543頭
--

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規模拡大や1ターン、企業参入など新たな担い手が数多く現れ、飼養戸数は減少傾向であるものの、飼養頭数は増加傾向を示しており、増頭に対応する放牧場の面積が不足している
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の放牧場は隠岐諸島各所に点在しており、農家戸数の減少に伴い荒廃が進み、再整備が必要な放牧場が存在している ・耕作放棄地や荒廃林の増大 ・地形的に急峻な土地で林野率が高い
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の要望把握、調査 ・土地利用の体系を再編し、放牧基盤整備を継続して行う

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

<ul style="list-style-type: none"> ・今後も計画的に放牧地等の拡大と再整備を推進し、肉用牛の低コスト生産を実現するため、畜産公共事業の活用により、持続的に利用可能な公共牧場を整備する ・隠岐島後地区（平成24年度～29年度）により、肉用牛の低コスト生産実現に必要な放牧場や畜舎などを整備する ・隠岐島前Ⅱ地区（平成30年度～34年度）の計画策定を行い、H29年度に事業申請し、H30年度より実施する予定 ・隠岐島前地区（平成26年度～30年度）により、肉用牛の低コスト生産実現に必要な放牧場や畜舎などを整備する
--